歌声マットに挑戦しました

はじめに

昨年の南河内ブロック大会で、牧野先生によるマット運動の実技教室がありました。ちょうど３年生を担任しており、９月からマット運動に取り組もうと考えていたわたしには、とても参考になりました。実技教室の内容を参考にしながら、ブロックで計画を立てました。関係性の希薄な子どもたちですので、みんなが夢中になってブームを作り、中学年らしさを発揮してほしいという願いがありました。

歌声マット

歌声マットや音楽マットの魅力は、友だちと動きを合わせるところでしょうか。単なる連続技だと、演技をする子の出来栄えだけに注目されがちです。しかし、歌声マットや音楽マットは、歌声や音楽という「もの」を通して、合わせるという意識をもたらし、そこから技術の習得や形の矯正が始まります。技の出来栄えを見合うだけでない、友だちを意識したり感じ合ったりできるところによさがあると思います。

取り組み

わたしの「願い」とその教材のもつ「よさ」を組み合わせて取り組みは始まりました。クラスには学習面や関係性で困り感をもつ子が３人と支援学級在籍の子が１人います。

１時間目は、動物歩きに挑戦しました。ラクダさんやくまさん、しゃくとりむしさんなど、いろんな動物歩きを楽しみました。手と足を交互に動かすくまさんに、たくさんの子がつまずきました。R さんは、この時点ではまだ取り組めましたが、ここに前転が入るお話マットになると、体が硬くなってしまいました。気持ちにムラがある子です。９月下旬より下降気味になっていました。さらにできない前転ですから、練習に消極的です。グループの友だちもそのことに不満を募らせます。どんどん入りにくくなっていきました。

それでも、いやいやながら取り組んだお話マットは、体の動かし方や自分もなんとなくできるかもという先への見通しをもたせたようです。

▲手をどうついていいかわからず、浮いてしまっています。

▲先生と一緒に前転の練習をしました。少し体の動かし方に見通しがもてたようですが、いやいや。始めました。

次に取り組む大また歩き前転では、頭頂部を直撃させたり、まっすぐ回れなかったりしますが、自分から練習を始めました。

先に困り感のある子が３人と言いましたが、この３人を同じグループにしています。R さんがこのような状態ですから、もちろんグループから不満の声が上がります。その度に、言い聞かせてきました。R さんの練習が軌道に乗ると、グループの調子がよくなりました。R さんの前転に声をかけたり、手をたたいたりする場面も見られ始めました。

さて、側転の練習です。牧野先生から教わったぞうさん歩きから始めました。くつを片方脱がせて少しずつ取り組みました。脚の運びにつまずきというより、足の着地位置に課題がありました。ここは、ブロック委員会で相談にのってもらい、「ライオンガオー」で切り抜けました。

R さんは、見よう見まねでやってみます。しかし、腕に体を乗せることにつまずきがあり、倒立姿勢になれずに、つぶれてしまいました。手を振り上げ、足をあげて回り始めるのですが、支えきれません。

いよいよ歌声マットに挑戦です。９月から始めて気がつくと１２月です。技の完成度はいまいちでした。思うように実践とは進まないものです。ただ、子どもたちは、最後まで熱心に取り組みました。

▲ぞうさんとライオンがお～で、側転の完成を目指しました。

実践を通して

なんとか R さんも取り組めました。しかし、取り組んだという以上の何かを得られたわけではありません。発表会までこぎつけましたが、指導力という点で課題が残る実践でした。

初めて歌声マットに挑戦しました。ただ技を練習するだけのマットとは違い、作品を作り上げていくおもしろさや、だから上手にしようという必然性、友だちと見合いっこできる楽しさなど、たくさんのよさが含まれていることを実感しました。

▲音楽マットに挑戦するつもりでしたが、途中で断念してしまいました。